

### 3. 流域の社会環境

#### 3-1 土地利用

##### 3-1-1 土地利用の現況

流域内の土地利用は、山地等が約 70%、水田や畑地等の農地が約 26%、宅地等市街地が約 4%となっている。

表 3-1 土地利用の現況

土地利用形態	市街地	農地	山地等	総面積
面積 (km <sup>2</sup> )	40.2	257.2	698.6	996
[全面積に占める割合]	[4%]	[26%]	[70%]	[100%]

流域面積から農地（耕地）と市街地（都市地域）の値を引いて山地等の値を算出している。

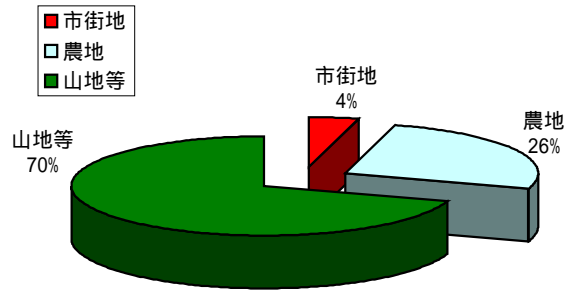


図 3-1 菊池川流域の土地利用面積

(出典：H15 河川現況調査(調査基準年 平成7年度末))

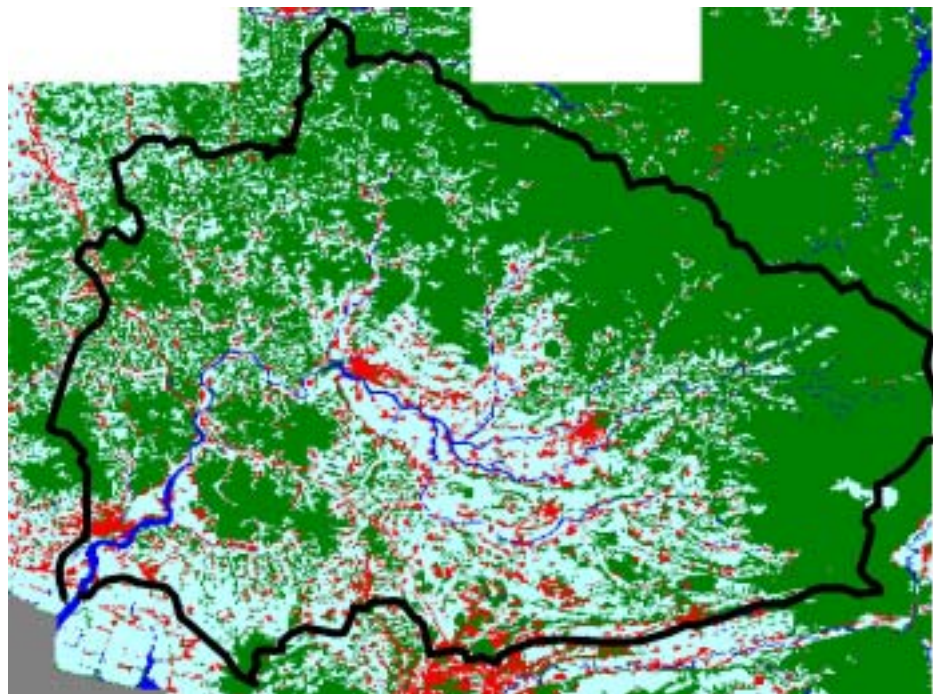


図 3-2 菊池川流域における土地利用図

(出典：国土数値地図H9土地利用メッシュデータより作成)

国土数値地図において、田・その他の農用地を農地（水色）として、建物用地・幹線交通用地を市街地（赤色）として、荒地・その他の用地・河川地及び湖沼・海浜・海水域・ゴルフ場を山地等（緑色）として取り扱う。

### 3-1-2 干拓の歴史

菊池川下流の玉名平野は、玉名市を頂点とする典型的な三角洲をなし、その前縁に藩政時代より逐次進められてきた干拓地が有明海に向かって広がっている。

近世初頭、加藤清正の水利土木事業によって、初めて菊池川三角洲の乱流が整理され、戦国時代より荒廃していた耕地の復旧、改良がなされ新田の開発が大規模に行われるように至った。河岸築堤による河道の固定によって干潟の形成はより一層促進され、石高増加のための新田政策、広大な干拓をなしうる土木技術とあいまって、干潟の干拓は藩政時代後半期になって急速に進んだ。

明治時代以降、明治 24 年から大正 13 年までの 33 年間にわたって民間資本による干拓が相次ぎ、約 30 年の休止期間を経て、昭和 21 年には国営横島干拓が事業に着手し、昭和 42 年に潮止が完了するに至った。

(出典：『玉名平野の開発と横島干拓』に一部加筆)



(出典：菊池川五十年史に一部着色、加筆)

図 3-3 玉名平野の干拓

### 3-2 人口

菊池川流域の関係自治体は、菊池市や山鹿市をはじめ6市6町から成り、平成7年現在で流域内人口は約21万人となっている。

表 3-2 人口の推移

年次区分	昭和45年 (人)	昭和50年 (人)	昭和55年 (人)	昭和60年 (人)	平成2年 (人)	平成7年 (人)	平成12年 (人)	平成17年 (人)	人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
流域内	—	218,343	209,758	214,374	222,939	208,694	—	—	209.5
菊池市	50,211	48,268	49,527	50,831	51,610	52,545	52,636	51,862	189.9
山鹿市	64,029	61,915	62,839	63,234	62,150	60,991	59,491	57,726	203.5
玉名市	69,354	69,893	72,324	74,356	73,319	72,900	73,051	71,851	477.9
熊本県	1,700,229	1,715,273	1,790,277	1,837,747	1,840,326	1,859,793	1,859,344	1,842,233	251.2

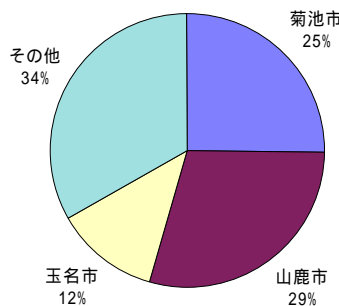
注1) 菊池市の人口は、旧菊池市、七城町、旭志村、泗水町が合併したため国勢調査人口の合計

注2) 山鹿市の人口は、旧山鹿市、菊鹿町、鹿本町、鹿央町、鹿北町が合併したため国勢調査人口の合計

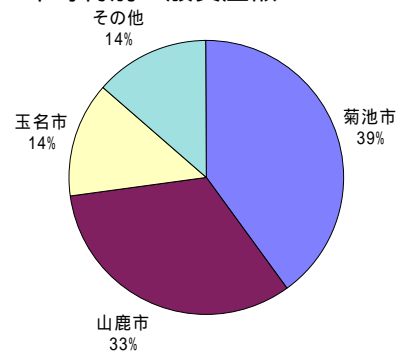
注3) 玉名市の人口は、旧玉名市、岱明町、横島町、天水町が合併したため国勢調査人口の合計

(出典：県及び市の人口は国勢調査、流域内人口は河川現況調査)

市町村別人口構成比



市町村別一般資産額



流域内及び想定氾濫区域内での市町にて作成。

(出典：平成7年河川現況調査)

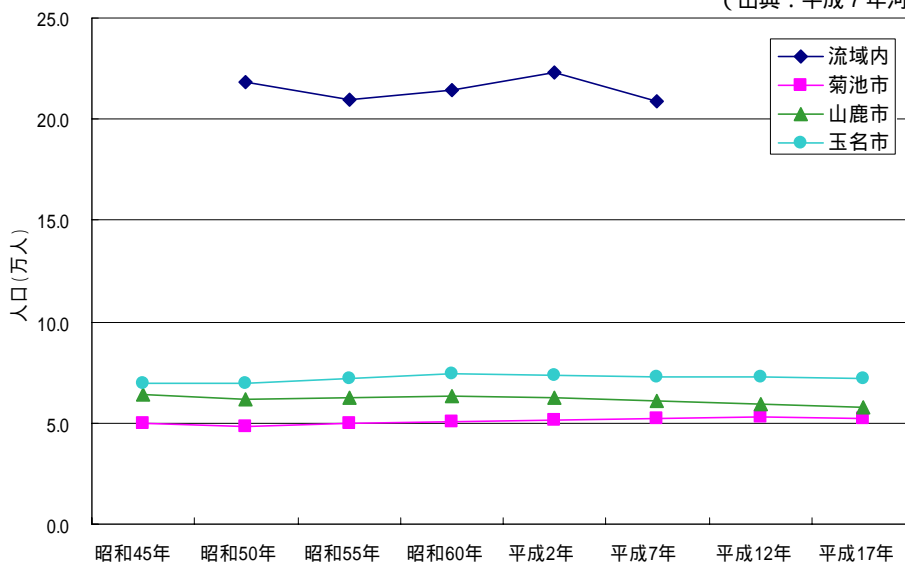


図 3-3 流域内人口と主要都市人口の推移

(出典：河川現況調査)

表 3-3 流域内関連人口の推移

県名	市町名	土地面積 (km <sup>2</sup> )	人口(人)								人口密度 (人/km <sup>2</sup> )
			昭和45年	昭和50年	昭和55年	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	
熊本県	菊池市	276.7	50,211	48,268	49,527	50,831	51,610	52,545	52,636	51,862	187.5
	山鹿市	299.7	64,029	61,915	62,839	63,234	62,150	60,991	59,491	57,726	192.6
	玉名市	152.6	69,354	69,893	72,324	74,356	73,319	72,900	73,051	71,851	471.0
	阿蘇市	376.3	35,878	34,607	34,004	33,504	33,018	31,364	30,457	29,636	78.8
	合志市	53.2	19,651	22,664	31,856	38,142	42,014	46,925	49,391	51,647	971.4
	南関町	69.0	14,278	13,086	12,498	12,478	12,247	12,076	11,821	11,203	162.5
	和水町	98.8	15,666	14,426	13,972	13,820	13,484	12,902	12,390	11,900	120.5
	玉東町	24.4	6,403	6,281	6,315	6,180	6,043	6,038	5,781	5,626	230.6
	植木町	65.8	23,563	23,992	27,002	28,679	29,301	30,823	31,235	30,772	467.6
	菊陽町	37.6	10,881	13,138	20,152	22,585	24,154	26,273	28,360	32,434	863.3
	大津町	99.1	18,322	18,086	19,894	22,008	23,744	26,376	28,021	29,107	293.7
大分県	日田市	666.2	64,866	63,969	65,358	65,730	64,695	63,849	62,507	74,165	111.3

注 1) 菊池市は、平成 17 年 3 月 22 日に旧菊池市、七城町、旭志村、泗水町が合併

注 2) 阿蘇市は、平成 17 年 2 月 11 日に一の宮町、阿蘇町、波野村が合併

注 3) 合志市は、平成 18 年 2 月 27 日に合志町、西合志町が合併

注 4) 和水町は、平成 18 年 3 月 1 日に菊水町、三加和町が合併

注 5) 山鹿市は、平成 17 年 1 月 15 日に旧山鹿市、菊鹿町、鹿本町、鹿央町、鹿北町が合併

注 6) 玉名市は、平成 17 年 10 月 3 日に旧玉名市、岱明町、横島町、天水町が合併

注 7) 合併市町の経年人口は、当時の国勢調査人口の合計

(出典：国勢調査)

### 3-3 産業経済

菊池川下流部に位置する玉名市の河口部は、不知火・有明・大牟田新産業地域に属し、一時活況を呈していたが、現在は特定不況地域に指定され、構造転換の必要が迫られている。また、流域上流南部の市町村はテクノポリスに指定され、先端産業等の企業誘致が進み、今後の発展が大いに期待されている。

流域内における就業者総数は新産業都市に指定されてから増加傾向にあり、昭和60年から平成7年の産業別の構成で見ると、第一次産業が約2/3に減少しているのに対し、第二次産業が約2.5割増、第三次産業が約1.5割増となっている。また、流域内の製造品出荷額は増加傾向、農業生産額は平成2年において減少となったものの、平成7年には昭和60年を上回る値となっている。特に菊池川流域でのスイカの収穫量は熊本県内の70%を占め、「植木のスイカ」は全国ブランドとして有名である。

また、流域内には、玉名・山鹿・菊池・植木・平山温泉等が位置し、豊かな観光資源に恵まれている。

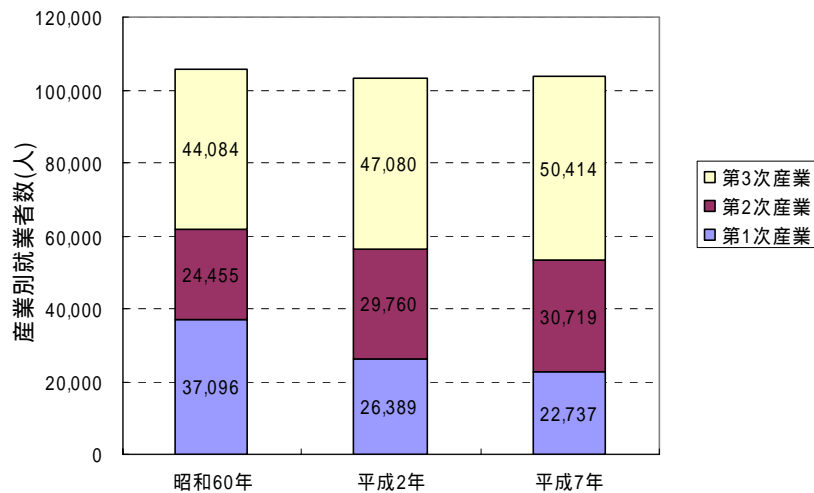


図 3-5 菊池川流域の産業別就業者数の推移

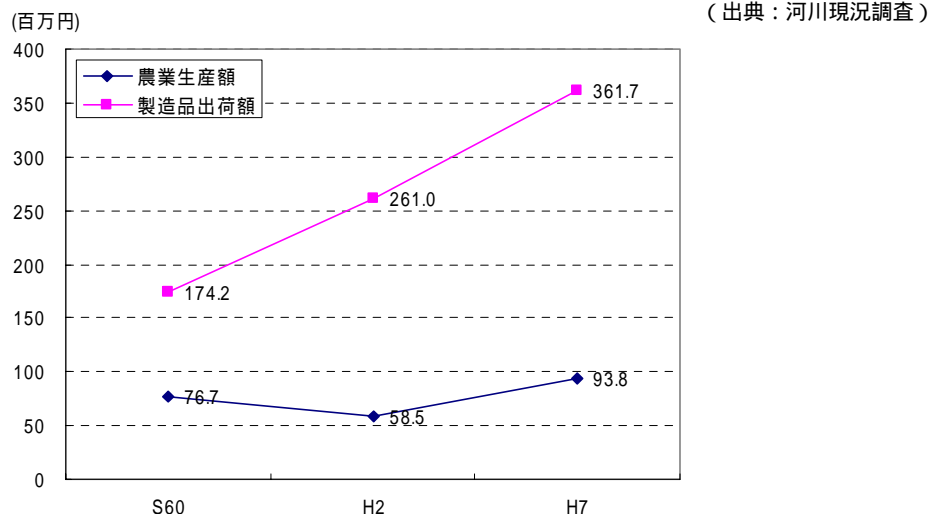
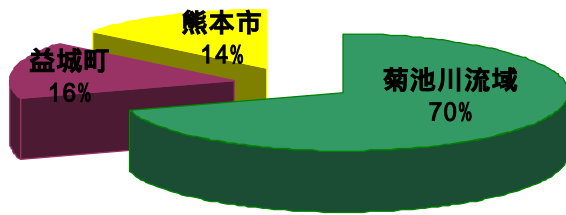


図 3-6 菊池川流域の農業生産額・製造品出荷額の推移

(出典：河川現況調査)



熊本県のマイタケ収穫量（全国第2位）における菊池川流域市町村の占める割合  
 （出典：野菜生産出荷統計 H17）



山鹿温泉（足湯）  
 （出典：菊池川河川事務所）

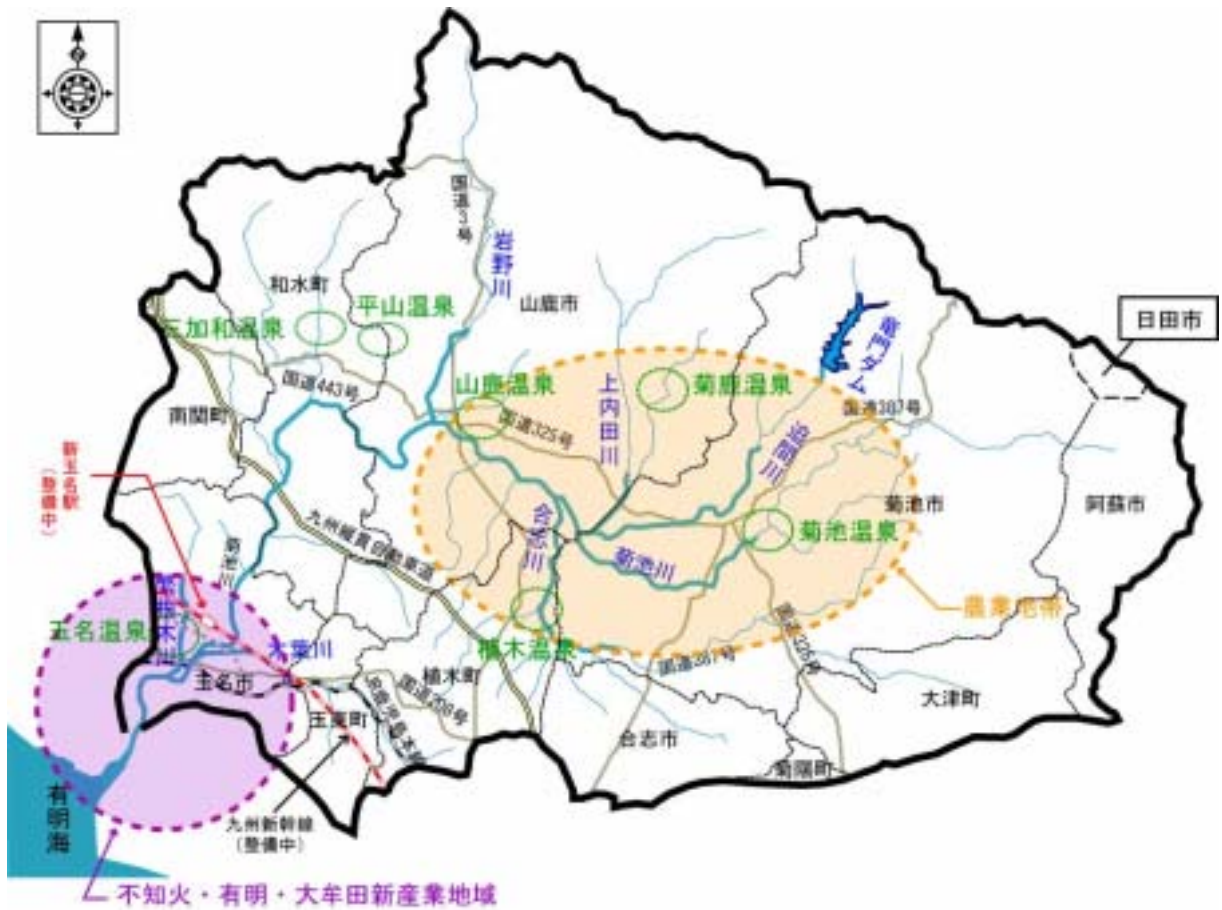


図 3-7 菊池川流域における地域別産業

### 3-4 交通

菊池川流域内では、九州縦貫自動車道をはじめ、国道3号、国道208号などの基幹線道路が走り、JR 鹿児島本線が流域の西側を通っている。

また、博多～鹿児島中央間を結ぶ九州新幹線が現在整備中であり、菊池川流域内の玉名市に新玉名駅（仮称）が新設予定である。

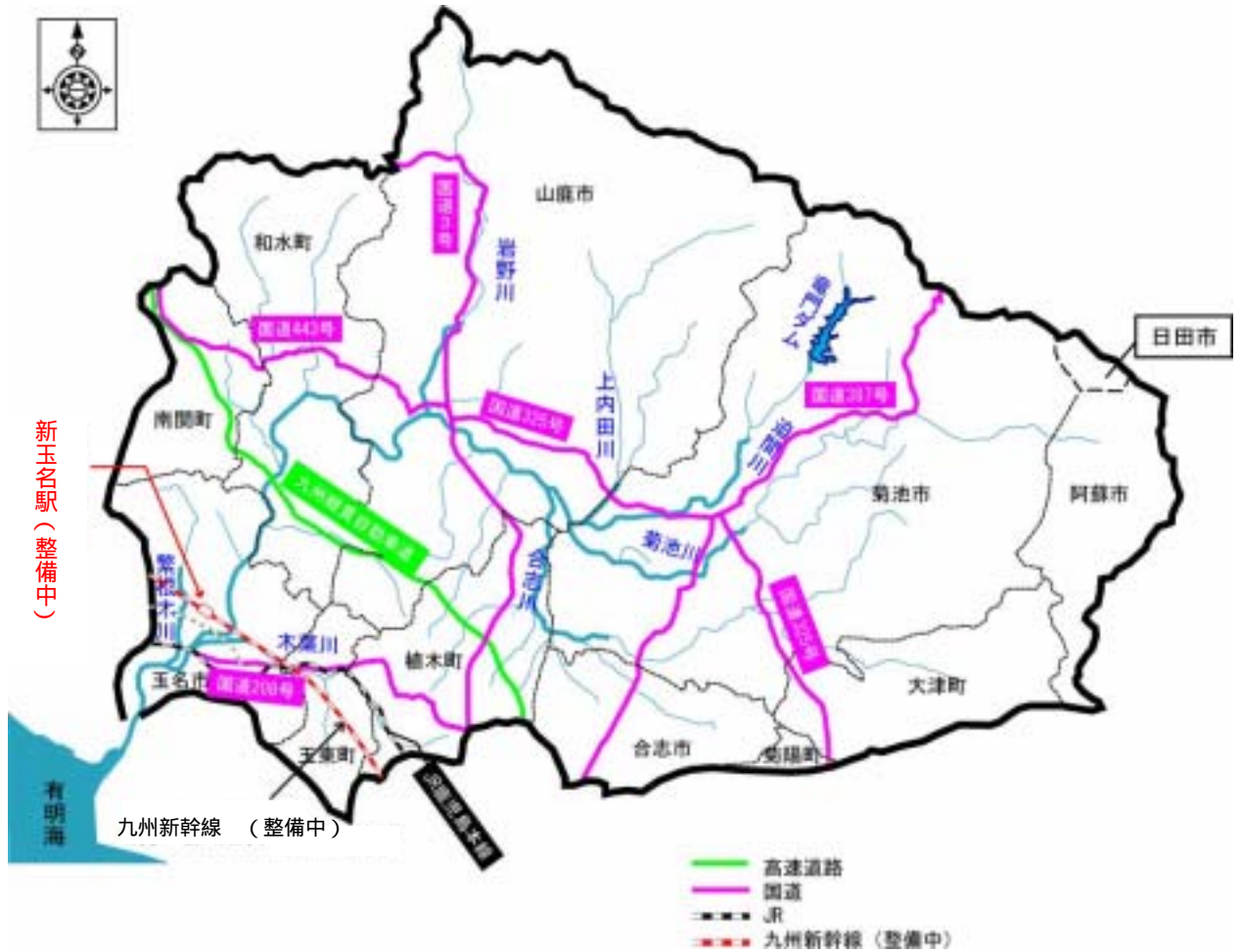


図 3-9 交通網図